

令和 4 年度 学校関係者評価報告書

(学) いづみ 幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・園のマスコットである、ももたろうの様に強く・優しく・たくましく幼児の心身の成長を促す就学前の幼児教育を提供する。
- ・浄土真宗仏教保育のスローガンである宗教的情操豊かな幼児教育を目指し、「まことの保育」に取り組み、諸々の年間行事で体験・経験を重ね、集団的規律、自主性、協調性を育くみ、それぞれに達成感を育む事を目標とする

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・本園の教育目標を礎とした年間の各種行事を念頭において、コロナその他の感染症予防対策の充実に努める。
- ・教職員が当園の教育目標を理解・共通認識を深め、教育環境の更なる改善と意識を高めていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1 保育内容・あり方	・目標、指導、要録他書類の作成等、職員同士の声かけや確認等、協力的な姿が見受けられた。コロナ禍継続につき、一同の参集困難により仏前朝礼などクラス別での取り入れに大変苦慮した。(仏賛歌/食前食後の唱和やおちかひのことば等)・昨年に継続して行事縮小・開催方法の変更等、保護者に園児の成長を披露する場が減少し、入室人数制限や参観での対応に心を痛め苦慮する事案が多かった。
2 組織・運営等	・異年齢交流もコロナ禍において開催回数は減少したが、再開と共に回数も増加でき良かった。・コロナ禍により潤沢な人員の確保、増員、補充が引き続き課題。職員同士の申し送り事項で、解釈に差異が生じ、共通理解認識したのか互いの確認が大切と痛感。・新規入園者の体験入園サークルの開催が極端に減少し苦しかった。
3 安全確保等	園での【おやくそく】は習慣化し、良好。園児同士の意識も高まり、園児通して注意し合ったりする姿が見受けられるようになった。園バスの置き去り事案が起きる前からも、乗降前後の園児数確認や当園園児数確認は行っていたが、担当者任せにするのではなく職員全員が意識して保育と安全管理に臨み意識がさらに高まった。感染対応では消毒作業に時間がとられるため、消毒しやすいものに抑えたため、杖の取り合いになどが増えたように思われる。来季中に園バスへ降ろし忘れ防止機器を設置予定。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

- ・感染症対策で保育活動に制限が継続していたが、緩和された部分もあり、来期においてはコロナ禍前に少しずつ戻していきたい。
- ・職員同士の共通認識・理解・情報共有を意識し声かけ・確認・申し送りなど意識し、いつも子どもを中心に置き、安全/安心な保育を提供する意識が強まった。
- ・今後も継続して保育環境の充実・感染症対策並びに安全管理対策の更なる向上に取り組む。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
1 地域との連携	地域住民とのトラブル(特にバス乗降場所等・園舎前路地)を少なくするため、継続して意識啓蒙に努める。地域の小中学校・他施設との交流会ができなかった。来季は再開したい。
2 安全確保	感染症対策と予防、適切な事後処理など、園内研修を通じて研鑽に励みたい。園児の安全確保において場面の变化の時の園児数確認をさらに徹底していく。バスへの機器設置。
3 行事のあり方	感染症対策に配慮しつつ恒例行事(運動会・お遊戯会等)園児の成長した姿を全学年の保護者一同に披露できる場を、コロナ禍前に戻していく。保護者会活動も少しずつ増やしていきたい。

6. 学校関係者の評価

- ・こどもが幼稚園に行きたくない…などと言うことばがないまま、幼稚園を楽しく過ごしてくれ事がとてもよかった。
- ・ドームでの運動会開催はできなかったが、園庭で運動会が開催出来てよかった。
- ・コロナ初期の時と比べ緩和が進むにつれ、園外保育が増え、子どもが楽しんで園に通えてよかった。
- ・お寺の幼稚園なのでお寺との兼ね合いもあるのだろうが、長期休園期間(夏・冬・春)が長いと感じる。
- ・兄弟で園に通ったが、コロナ前と渦中では兄弟の思い出の量(園行事などの写真)大きな開きがあったことが大変残念だった。今後は少しずつでもコロナ前に戻って保育ができるようになることを念じています。

委員会実施日：令和 5 年 3 月 31 日

学校関係者評価委員：.....

学校関係者評価委員：.....

学校関係者評価委員：.....